

令和7年度あわじ環境未来島構想推進協議会総会議事概要

1. 日 時：令和7年5月27日（火）14時30分～16時20分
2. 場 所：淡路夢舞台国際会議場 2階メインホール
3. 構成団体数：114団体
4. 出席団体数：47団体（委任状出席 42団体）
5. 出 席 者：別紙のとおり

発言者	内容
石村 会長 （（一財）淡路島く にうみ協会）	1 開会 （開会あいさつ） ・淡路島は嬉しいことにマスメディアでも多く取り上げられており、先日の淡路花博 25 周年記念花みどりフェアでは、3会場あわせて約 68 万人が来場され、大盛況のもと閉会した。 ・あわじ環境未来島構想は、2011 年 12 月に国の地域活性化総合特区の指定を受けてから 13 年が経過。島内各所で様々な取組が行われてきた。 ・本日は、構想の実現に向けた取組の状況、総合特区としての事後評価、構想の実現に向け、取り組まれている方々からの活動報告、意見交換等を予定。
高木 県民課班長	（来賓、アドバイザー紹介）
由良 県民躍動室長	（本日の協議会の出席状況について、事務局から説明） 構成団体数 114 団体中 出席 47 団体（オンライン参加を含む） 委任状出席 42 団体 の計 89 団体が出席。 規約第 11 条に定める総会開催要件の全構成団体 1/2 以上の出席を満たしており、本総会は有効に成立している旨、報告。
由良 県民躍動室長	2 議事 （1）副会長の選任について （2）規約の改正について （3）企画委員会委員の指名について ・資料 1-1, 2、資料 2 のとおり説明、報告 資料 1-1, 2 について異議なしで承認された。
由良 県民躍動室長	（4）あわじ環境未来島構想の推進状況について ・資料 3-1, 2, 3 のとおり説明
	（5）総合特別区域事後評価について

中谷 広域調整課長	・資料4-1, 2, 3のとおり説明
山中 代表 (淡路ラボ事務局)	(6) 活動状況報告等 ①地域に人を繋ぎ、未来を拓く淡路ラボの挑戦 ～「あわじ環境未来島モデル事業」で取り組んだ事業および淡路ラボとしての取り組みについて～ あわじ環境未来島モデル事業では、若者を中心とした、交流人口以上定住人口未満ともいわれる「関係人口」を創出してきた。コロナ渦によって増加してきた二拠点生活者やふるさと納税者も関係人口といわれる。昨年度は、農や食の生産者にインタビューしたものをInstagramのショート動画へ投稿し、関係人口創出のための広報ツールとして定着した。 もう一つの成果として、BEYOND COMPANY の事務局から声がかかり、大企業が中心となった、200人以上が参加する2日間の宿泊型会議（BEYOND CONFERENCE 2025）を開催。 その他、淡路ラボとしての活動として、「島の人事部」による島内の人材不足の解消や海外の関係人口づくりのため、「Authentic Japan 事業」や「内閣府世界青年の船」を招致。世界青年の船では、淡路島全域で3日間におよびフィールドワークや対話を実施。観光のための地域ではなく、地域のための観光をしてもらい、地域の方とつながってファンになってもらいたい。 今後は、延べ2,000人超のデジタル関係人口や島の人事部、Authentic Japan を活用して、防災に強い地域づくりを推進していきたい。期待としては、地域と外部人材をつなぐコーディネーターの増加、活動資金の確保、島内高校生と連携したい。
井川 温暖化対策官 (兵庫県環境政策課)	②ペロブスカイト太陽電池等を活用した地域脱炭素強化推進事業 昨年2月に国の地球温暖化対策計画が改定され、温室効果ガスの削減目標年度が2030年度までであったが、次期として、2035、2040年度目標が示されており、2050年度実質0を目指す。 目標達成に向けた取組として、エネルギー転換、産業・業務・運輸等への支援、地域やくらしでの脱炭素支援などが実施される。 同時期に改定されたエネルギー基本計画では、2040年度の見通しとして、再エネを活用した電源構成を全体の4～5割程度としており、特に太陽光発電がそのうち23～29%程度となっているため、今後更なる導入を進めていく必要がある。 一方、兵庫県地球温暖化対策推進計画では、温室効果ガスの削減、再生可能エネルギーの導入の二つを目標としているが、現在の太陽光発電は、シリコンパネルが市場の約95%であり、導入促進のためには、これまで設置が難しかった場所にも導入する必要があるた

井川 温暖化対策官 (兵庫県環境政策課)	め、シリコンパネル以外の導入を検討。そこで、薄く軽量で柔軟性があり、大量生産・低コスト化が可能であるなど、次世代型太陽電池として期待されているペロブスカイト太陽電池に着目した。現在は、耐荷重の関係で設置できなかった屋根や壁面への設置について、各地で実証が実施されている。 兵庫県では今年度より、洲本市内において、ペロブスカイト太陽電池と活用した小規模な営農型太陽光発電（ソーラーシェアリング）による実証を実施予定。農業者の協力のもと、農地に支柱を設置し、農作業の効率性、農作物の品質への影響などを確認しながら実証を進める。
高原 課長 (兵庫県水大気課)	③「淡路地域でのグリーン水素の地産地消の検討」について まず、グリーン水素とは、太陽光発電等の再生可能エネルギーで得られた電気を利用し、水を分解して得られる水素のことを意味する。 兵庫県の水素の取組には5本柱があり、当課はその中の水素エネルギーの地産地消と水素モビリティ普及促進に主に取り組んでいる。水素エネルギーの地産地消では、淡路地域での余剰再エネを活用した水素製造と利活用の検討を進める。水素モビリティ普及促進では、兵庫県燃料電池自動車普及ビジョンを策定し、R12年度までに20基の水素ステーションの整備を目標としている。 淡路地域での取組においては、グリーン水素は高額であることから、太陽光発電から直繋ぎで安価な電力を大量調達して、水電解装置の稼働率を向上することや、モビリティのみによる需要確保は困難であるため、観光施設での熱利用や農業での利用等、モビリティ以外の利活用も検討することなど、課題とそれに対する解決策を検討する必要がある。取組の進め方として、島内事業者及び行政が一体となってサプライチェーンモデルを検討し、当事業に参画いただける事業者を幅広く募集している。 淡路島北部～南部のモデル案として、太陽光発電等を活用して水素を製造し、マイクロバスに充填可能な中規模 ST の整備、送迎バス、観光周遊バスや路線バスとしての FC バスの使用、ST から水素タンクを輸送し、レンタサイクルや FC フォークリフトでの利用及び観光施設やビニールハウスの電源・熱源に利用できると考えている。 皆様へのお願いとして、水素の製造、輸送、利活用に興味、アイデア等をお持ちの方（ご紹介を含む）は、水大気課までご連絡いただきたい。 (7) 意見交換 アドバイザーからの意見・質問等

齊木 名誉教授
(神戸芸術工科大学)

昨年の報告があったが、今年は更に具体的なプロジェクトや提案が次々出ており、大変期待している。

未来島構想のいくつかのプログラムが出てきたが、一体どういった構造体で関係性を持っているのか。先ほども関係人口のお話があったが、出てくるものの関係性をどう協議されて、実行性のあるものに進められているのか。企画委員会の中で、出てきたものを関係させて、そして淡路島に着地させるか。今、私も含めてこの場に集まっている方々は関係人口の一人だと思う。住んでいる人たちや行政の方々だけではなく、企業の方々もいらっしゃるし、私も淡路島の計画をお手伝いする中で、農園をお借りして毎年、玉ねぎとサツマイモを作っていた。それを住んでいる神戸で食べているが、立派な関係人口だと今日のお話で再確認した。

いくつかの出てきた事業が評価されるわけであるが、その評価により、どのような関係人口が生まれるのか。関係人口は、どのようにつながっているのか、どのように関わり合いがあるか、どのように結びついているのか、どのようなチャンスで出会っているのか。そのような関係人口を具体的に見ていくと、単なる人口ではなく、関係する人々であると解釈した。関係人口という塊を定住人口と対比して使うのは停止して、できれば関係人口を少し腑分けしてみたいのか、というのが初めの提案である。腑分けによって、関係する人々が淡路の地域、淡路の事業者、淡路の子どもたちや淡路に関わっている私たちとどのような新しい出会いや結びつきを生み出すのか、という具体的な議論はできると思う。今日、関係人口を紐解きながら、大変良いお話をいただけたので、まずは期待してみたいと思う。

このプロジェクトが始まって13年が経過し、そのときに小学校を卒業した子どもたちはもう成人している。関係人口の中で、淡路の人がどう関わるかというときに、今ある現在の若者だけではなく、小学生などのこれからの将来を担う人々も、未来島構想に関係する人々としてもらいたい。関係人口で一括りするのではないという話が今日スタートしたと期待する。具体的に申し上げますと、未来島構想の取組一覧があり、事業評価がされた。評価方法や視点というのは、国から示された内容を基準にしていると思うが、本総会では、それをどう淡路に着地させるか、ということであるから、是非この内容を淡路の人たちの評価にも一層、レイヤーを作っていたいただければ良いかなと思う。数値を入れてどうこうではなく、淡路の人たち、例えば小学生にも理解できるような説明ができるか、ということである。「そのときに貴方たちも関係する人々になるんですよ」、太陽エネルギーや水素のお話もあったが、「将来はこの事業に関係することによって、新しい仕事ができるんですよ」、「そして、その仕事が暮らしや産業など、貴方たちの未来を創るんですよ」、「これらがどうつながっていくか、貴方たちの未来を考えていますよ」、といったような説明ができれば、評

齊木 名誉教授 (神戸芸術工科大学)	価値が一段進むと思う。 まずは、関係する人々をどう引き込むか、これからを担う子どもたちをどのように引き込むか。特に、女性の力を上手く引き込むことが大切であると思う。単なる観光客や外から来る人たちではないということに今回気づいたのは、大きな成果だと思う。 太陽エネルギーや水素ガスのお話があり、太陽エネルギーに関し、新しい太陽発電の仕組みが出てきたが、今ある太陽エネルギーの設備・施設が新しい仕組みにどう変わっていくのかというプログラムや段階性を考えていかなければならない。時間を取り入れた事業の提案をしていただき、関係する人々が何人、どこに増えるか、それによって経済がどれくらい伸びるか、どの程度定着するか、というモデルができれば良いと期待する。
石村 会長 (一財)淡路島くにうみ協会)	【会長より】 貴重なご意見感謝する。お話のあったように関係人口と一括りにするのはではなく、どういった関係を保って、プロジェクトにご参加いただくか。そして、13 年が経過しているが、やはりこれから淡路を担う若い人たちへの継承なども当会の重要なところではないかと考える。事務局からはいかがか。
由良 県民躍動室長	【事務局より】 ご指摘のとおりで、淡路島に関係する姿は色々なものがある。それぞれを分析すると、こういう関係を持った人とこういう関係を持った人が連携すれば、もっと大きな力になる、と可能性の幅を広げていくご指摘であったと思う。今後の取組でも十分留意し、また、第4期計画に向けた設題を考えていく時期がやって来るので、その辺りを企画委員会でも十分議論させていただきたいと考えている。
手塚 名誉教授 (京都大学・大和大学情報学部)	祖父母が淡路島に住んでおり、小さい頃から遊びに来るなど、淡路島に親しみを持っている。 今回ご報告やご活動をお聞きし、非常に頼もしく拝聴していた。 総合特区について、令和5年度の評価は3位であり高い評価をいただいているが、より上を目指すということであれば、もう少し総合特区の得点を活かせる可能性があると思って聞いていた。スライドで規制緩和という言葉があったが、恐らく規制緩和を活用し、新しい試みをしようというところまでは至っていないと思う。 例えば、自動運転やペロブスカイトの実験をするなど、新しい取組ができる可能性があると思うが、現在の規制がもし妨げになっているようなことがあれば、特区の制度を利用し、淡路島ならではの実験もできるのではないかと考える。そういったことは、専門家を交えないと新しいアイデアも出てこないと思うので、是非、専門家の意見を取り

手塚 名誉教授 (京都大学・大和大学情報学部)	入れて将来の再生可能エネルギー社会に向けた新しい取組を積極的に考えていただきたい。 ペロブスカイトや水素についてご発表いただいたが、水素の最後のスライドでアイデア募集中とのお話があった。ペロブスカイトに関しても寿命が短いなど色々な問題があるのは理解しているが、技術的な問題というのは、恐らく技術の方が勝手にどんどん進歩して改善していくと思う。なので、ペロブスカイトを使った楽しいワクワクするようなシステムや機械を編み出していただき、皆でペロブスカイトを盛り上げていこうよ、という雰囲気のを淡路島の中で作ることにはできないかな、という思いで聞いていた。是非、盛り上げていただいて、次期総合特区計画へのチャレンジに使ってもらえれば更に発展すると思う。
木村 委員長 (第3・4期淡路地域ビジョン委員会)	構成団体から まずは、県の事務局の方々の取組に感謝申し上げたい。淡路島の住民として、淡路島が先進的に特区として取り組んでいることが全国にも発信できているというのは、非常にありがたい。 淡路島の自然環境に関し、太陽光発電をずっとされているが、山を見たときに竹やぶが凄まじい。竹やぶは環境破壊にもつながるし、水害などの災害時にも非常に危ない状況になると思うので、この辺りにも具体的に取組んでもらいたい。
井筒 兵庫県企画部次長	3 閉会 (閉会あいさつ) 閉会にあたりご挨拶申し上げます。 万博が開幕し、非常に大きな盛り上がりを見せているところではあるが、万博会場だけではなく、是非とも兵庫にも足を延ばしていただかなければならないということで、淡路地域におかれては、淡路島の魅力を地域が主体となって発信する、AWAJI 島博も同時開催されているので、国内外の方々に広く淡路島の魅力が伝わることを期待している。 県でも、地域の SDGs を体現する活動の現場に来ていただいて体験いただく、ひょうごフィールドパビリオンの取組を進めてきたが、淡路島においても、29 件にも上る体験プログラムを認定させていただいている。折しも、本日万博会場においては、ひょうごフィールドパビリオンフェスティバルが昨日から一週間開催される。関西パビリオンの中の兵庫県ゾーンも大変好評をいただいているので、是非皆様にも万博会場へ足を運んでいただけたらと思う。 本日は、あわじ環境未来島構想の推進状況をはじめとして、淡路ラボ様の関係人口増加に向けた取組、太陽電池、水素といったグリーンエネルギーの推進など、淡路における様々な活動状況について、報告

井筒 兵庫県企画部次長	をいただいた。こうした取組が未来島構想を推進していくうえで非常に意義深いものだと考えている。淡路地域の持続可能性を確保するためには、定住人口の減少を食い止めるとともに、交流人口の拡大を図ることが重要。そのためには、淡路島の魅力を広く発信して多くの方々に関心を持ってもらうことが不可欠である。今年は万博も開催されていることで絶好の機会であるため、淡路島の魅力を広く PR するとともに、今後も引き続き未来島構想の取組を通じて、次の時代を担う若者・子供たちが、この淡路地域で働きたい、活躍したいと感じられるようなシビックプライドの醸成につながることを期待する。 最後になるが、この構想が目指す将来像である、持続する環境の島の実現に向け、今後も皆様とともに歩み続けることを申し上げ、閉会の挨拶とさせていただきます。
-------------	--